

研究・調査報告書

報告書番号	担当
195	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Medical comorbidity and alcohol dependence. アルコール依存症と合併症	
執筆者	
Mannelli P, Pae CU.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Curr Psychiatry Rep. 2007 Jun;9(3):217-24. Review.	
キーワード	
アルコール依存症、アルコール関連疾患	
要 旨	
<p>アルコール依存症は遺伝的、社会心理的、環境要因によって起こる慢性疾患である。近年のアルコール飲酒への科学的な関心によってアルコール依存、慢性的なアルコール摂取による長期にわたる健康に対する影響に関して多くの文献が集積された。アルコールは60以上の病態に関係し、40%の入院患者はアルコールの誤用による合併症の治療を受け、15%以上の医療費が費やされている。このレビューではアルコールによる影響について最新の知見をまとめる。</p> <p>大量のアルコールは多くの臓器を障害し、アルコール依存症、ウェルニッケ脳症、肝性脳症、脳卒中、頭蓋内出血、アルコール譫妄、狭心症、不整脈、心筋症、心筋梗塞、上部消化管出血/穿孔、急性膵炎、ARDS、急性呼吸不全、呼吸器感染症、アルコール性ケトアシドーシス、電解質異常、低血糖、急性腎不全、筋障害などの原因となる。本態性高血圧、肝硬変、慢性膵炎はアルコールと直接の影響がある。そのリスクはアルコール換算で25g/dayで本態性高血圧がRR=1.43 (1.33-1.53)、肝硬変がRR=2.90 (2.71-3.09) 慢性膵炎がRR=1.3 (1.16-1.54)であった。アルコール換算で50g/dayでは、本態性高血圧がRR=2.04 (1.77-2.35)、肝硬変がRR=7.13 (6.35-8.00)、慢性膵炎がRR=1.78 (1.34-2.36)であった。さらにアルコール換算で一日飲酒量が100g/dayで本態性高血圧がRR=4.15 (3.13-5.52)、肝硬変がRR=26.52 (22.26-31.59)、慢性膵炎がRR=3.19 (1.82-5.59)であった。そのほかに乳がんや、胎児性アルコール症候群、外傷、事故などのリスクも上昇する。</p> <p>アルコールの病気に与える影響は地域によって大きく異なり、途上国での約1%から以前の社会主義国の12%である。全体としては4%がアルコールによると考えられている。これはタバコの4.1%に匹敵し、低体重が9.5%、危険な性行動が6.3%、高血圧が4.4%はアルコールをのいでいる。</p> <p>新しい知見は、アルコール使用による合併症のより適切なマネジメント戦略構築にあたっての手助けになるだろう。</p>	